要領様式第２号

出張報告届

令和4年　10月　18日

吹田市議会議長様

会派名　　自由民主党絆の会

出張者氏名　　白石　透

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出　張　先	出島メッセ長崎
期　　間	令和4年10月12日から　令和4年10月14日まで3日間
出張の成果	別紙のとおり
備　　考	第 84 回全国都市問題会議 個性を活かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～ 会議開催日は令和 4 年 10 月 13 日 14 日ですが、13 日午前 9 時半開始のため 12 日に現地入りし前泊したものです。

吹田市議会事務局
4.10.18
受付

第８４回全国都市問題会議　　報告書

個性を活かして『選ばれる』まちづくり

～何度も訪れたい場になるために～

日程：　令和　４年１０月１３日（木）、１４日（金）

場所：　出島メッセ長崎

講演者・パネリスト　高田　旭人　ジャパネット HD 代表取締役
兼 CEO

田上　富久　長崎市長

佐藤　孝弘　山形市長

都竹　淳也　飛騨市長

藤原　保敬　伊丹市長

他６名　学識者、NPO 法人理事長等

初日は地元を代表する１民間企業である、（株）ジャパネットＨＤの取締役兼ＣＥＯの高田旭人氏の基調講演があった。

高田氏によると、長崎県は、13 市町が消滅可能都市と判定され、２０４０年までに大きく人口が減るともいわれており、地域創生を

強く意識したとのこと。もともと、ジャパネットという企業は、長崎の小さなカメラ店としてスタートしてから、創業者の高田明氏がラジオを使った新しいショッピングの形を生み、テレビ、チラシ、カタログ、インターネットとさまざまなチャネルで通信販売事業を行ってきた経緯があり、２０１７年より長崎のプロサッカークラブ「V・ファーレン長崎」の運営を始めたことをきっかけに、地域を盛り上げていきたいという想いが強くなっていったとのこと。ここにコロナ禍が始まり、まさに東京一極集中から地方へと在宅勤務なども加わり長崎への想いが強くなり更なる行政との連携をとりながら、【「何度も訪れたい」場所になるために】を合言葉に活性化に取り組んでいるということであった。

現在、ジャパネットグループで、通信販売事業に並ぶ２本目の柱として、スポーツ・地域創生事業を掲げ、２０２０年には長崎初のプロバスケットボールクラブ「長崎ヴェルカ」を立ち上げ運営し、現在は長崎駅前にスタジアム・アリーナや商業施設、ホテル等で構成するまちづくり「長崎スタジアムシティプロジェクト」を進め、２０２４年の開業をめざすとしている。翌日の視察で現地を見せてもらったが、当市のパナスタ吹田と重なってみえ、さらに長崎駅周辺の開発のレ

ベル感は大規模だと感じた。

その後、田上富久長崎市長の講演があり「長崎さるく」は団体旅行から個人旅行に変わってきた時代に、新しい観光スタイルに対応させるために始めた全国のまち歩き観光の先駆けとなった取組で「さるく」とは「ぶらぶら歩く」という方言で、長崎市に散らばる魅力を見つけながら歩くものである。住んでいる市民が地域資源の価値に気づかないと持続可能な観光は実現しないという思いから、市民参加による企画やガイドにより取組みを進めてきた。日ごろから市民がよく通るような道も、価値があったことに気づき、愛着がわき、シビックプライドの醸成にもつながった。

この取組は、特別な何かをつくるのではなく、暮らす人にとっては身近にありながらも、気づいていない価値に気づくことで、まちへの愛着につながったと、話された。

午後から、翌日にかけてのパネルディスカッションでは大学教授、山形市長、飛騨市長、伊丹市長他、独自のまちづくりのかかわり方など、実例の紹介があり、それぞれのまちの特徴ある仕組みの紹介などがあった。これらの市町村には個性がありそこを深堀するなどの事案がわかりやすかったが、２日目の視察時の昼食が当市の後藤市長、

桑名市の伊藤市長、秘書課長の稲葉さん、私と４人が同テーブルとなり、色々と話がはずんだが、「吹田市は活気があっていいですねー」「吹田市の特徴は？」となったときに直ぐに返答が出来なかった。

吹田市は現在、人口増加中で活気があり、交通アクセス、住環境が整っている、など色々でてくるが「特に？」と言われれば即答できない。市民からは当然のことながら、いろいろと声をいただく。

ここからは個人の意見になるが、吹田市の向かう先は私は「住民満足度」の向上と思っていて、各方面での施策は当然のことながら、すべての市民にかかわる、生活基盤の整備、レベルアップが重要だと感じた。

たいへん意義ある会議だと感じた。